

夢

追

い

人

～夢を大きくもち、目指していく～

毎回違ったアレンジでお客を楽しませる



フラワーショップ花清
チーフデザイナー
堤 功さん

堤さんの得意は、赤いバラ。これはフラワーアレンジメントコンテストに出品する際の花材のことである。そしてこの赤いバラで、全国生花商組合全国宮崎大会の持込部門で三位に入賞した。堤さんは言う。「自分のオリジナリティーを作り上げようと、赤いバラにこだわって来ました。」

赤いバラと緑の色彩だけで勝負するのは、難しさがあると思う。あえて色とりどりの華やかな色彩を駆使しない。それだけに余計にアイデア、テクニック、デザイン力が求められる。

堤さんは、生花店「フラワーショップ花清」の二代目。身につけたフラワーアレンジメントの技術を活かしている。国家検定のフラワー装飾一級技能士である。また、日本フラワーデザイナー協会の一級正会員でもある。長年恩師について勉強を続けてきた成果である。「師匠は品川先生です。フラワーデザインコンテストでも審査員を務める方です。今でも月に二回、出向いて、勉強



を続けています。「その努力の甲斐あって、今ではコンテストで常時上位十五位以内に入賞するようになった。」

堤さんのフラワーアレンジメントは、基本を大切に。裏付けとなる理論がしっかりと反映している。将棋で言えば、定石のようなルールが、この分野にも数多くある。たとえば、ラウンドのアレンジメントの場合、頂上の部分は開花した花下に降りてくるにつれ、つばみに近い花材を用いること。まっすぐ立てる場合は、そのラインの美しさを出すため、まさに「まっすぐ」に生けることなど…。(筆者が素人で十分に理解できなかったが。)

しかし、デザインをする上



めずらしくて
変わった花のランプ

で感性を磨くことの方が大事」という。そのためどんな努力を払っておられるのだろうか。「努力と言っばほどはありませんが。車で街に出るときには、面白い物、形、デザインに目を配るようになっています。特に古い建物には感銘を受ける物が多いですね。テレビ、漫画からも学べます。『風の谷のナウシカ』などで有名な宮崎駿監督のアニメから啓発を受けることもあります。セル画の構成とか、色遣い、微妙なグラデーションとかです。」

固定客からの花束やアレンジメント注文であっても、毎回違ったデザインに気を配る。客に違いを理解されなくとも、自分自身へのこだわりがあるからだ。例え運びにくいデザインであっても。

月に二回、花清の二階で、フラワーアレンジメント教室も開いている。生徒さんは現在六名。「教えるのは楽しいですね。自分の技能を磨くためにもこうしたアウトプットは役立っています。」

皆さんも、たまには、応接室

などに花清さんのアレンジメントを置いてみられるのはいかがでしょうか。きっと楽しい気分になれるに違いない。もちろん『赤いバラ』だけでなく、色とりどりの花々も眺えてくれる。

今後の夢は何だろうか。「全国大会コンテストで一位を取ることです。内閣総理大臣賞です。もっともかなり難しいでしょうけどな。(笑)」
でも、せーの一位を目指してがんばって下さいー！

